

実行委員長ごあいさつ

震災後4年目に始まったこの「ウォーク」も、今回で13回目を迎える。一緒に歩いて寄付するこのアイデアは、神戸復興運動のサブブランド「NPO 復興のお土産」で、追悼のイベントではなく、市民活動支援を目指す意義込みが斬新であった。全米約100都市で開催される「エイズウォーク」のなかでもサブブランドは最大級で、昨年は2万5千人が参加し、寄付総額は3億円に達したという。

捐款の事情で、この「ウォーク」は4年目から有志参加型に切り替えたが、当初の志を次の世代に引き継ぐために、地元の皆さんの心からの応援を得て、1昨年からは市民への参加呼びかけを再開することにした。

「ウォーク」の経路は、神戸の伝統的な下町を巡っている。震災のため、古い市街地の面影は希薄になったが、住民の絆は消えていない。まちの復興はひとりの復興でなければならぬという教訓を、是非、この機会に確かめていただきたい。

この「ウォーク」2011 実行委員会
実行委員長 小森星児

しみん基金・KOBEごあいさつ

「この「ウォーク」2011」へご参加いただき誠にありがとうございます。

阪神連続大震災を契機に、地域社会に参画し自分たちの暮らしを支え合う活動の大切さが広く認識されました。このような市民による公益的な活動を、市民自らが支えていく仕組みとして「しみん基金・KOBE」は1999年に設立されました。設立以来11年間で延べ124団体に総額約4,500万円を助成してきました。これらの活動を通じて、地域における身近な支え合いの連鎖を育み出してきました。今後も、人と人、人と社会、人と自然の心のこもった「絆」を創り繋いでいくことが当基金の使命と考えています。

ここでの基金は、当基金へ寄付され、毎年実施している助成事業を通じて、様々な分野の草の根市民活動団体へ助成させていただきます。今後とも、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 しみん基金・こべ
理事長 黒田裕子 (078-230-9774)

- ① 新長田駅北西西側地区…震災前は、商業・事務所やケミカルシューズ等の工場と混在する形で狭小住宅等が立地する住居工業地域であったが、今回の地震で約8割の建物が大きな被害を受けた。
- ② せせらぎ…まちづくり協議会の発案を受けて整備を進めてきたもので、高取山の湧水を利用している。せせらぎの流れる歩道にはベンチを設置しており、市民が愛用している。
- ③ シューズプラザ…震災から長田のケミカルシューズ産業の復興と職のまちがたの活性化を目指し、「シューズの元祖は、神戸の元祖だ！」とキャッチコピーに誕生。各種シューズ店や企画展を実施している。
- ④ アジアギャラリー神戸…アジア雑貨の店が集まる商業ビル。約8千人のアジア系外国人が住む長田で、アジアとの共生をテーマにした中核施設として2009年7月にオープンした。
- ⑤ 水空通公園…地域の防災公園(長田駅北地区震災復興土地区画整理事業)としての役割を担い、「100x 防災火水」が整備され、音響の道のりを次代に伝えるために「震災復興の絆」が樹立された。
- ⑥ 新渡川…震災後、多くのボランティアグループが川沿いの公園に拠点を置き活動した。その後、2度におわたって河が氾濫したが、2009年に新渡川コンクリートが改築された。(河工事は阪神高速道路関係)
- ⑦ 御音喜・西区西側地区…震災前は、駅前長屋が並び、市場・商店街や家内工業を中心とした中小規模の工場が立地する利便性の高い住宅地だったが、地震で約8~9割の建物が大きな被害を受けた。

①の場所は、
トイレが利用できます。



- ⑧ 大國公園…震災による火災の被害を防ぎ、地区の人々の避難所となった。銅鑄した鳥居の石を使った記念碑、震災直後の樹の幹子をステンレス板のプレートに貼り付けた「緑葉のモニュメント」、「復興の基準点」がある。
- ⑨ 御音喜区画整理地区…震災前は、商店街と駅前長屋等からなる利便性の高い住宅地であったが、今回の地震ではほとんどの建物が被災するという大きな被害を受けた。
- ⑩ カトリックたかひら教会…多くのボランティアの拠点となった教会。震災で被災したが、2007年4月に再建された。「ベニヤボード」が作りは自費で移設された。NPO 法人たかひらコミュニティセンターが多文化共生の拠点となり多くのNPO が活動している。
- ⑪ 野田北まちづくり協議会…1999年9月の「コミュニティ宣言」後、まちづくりの旗印をハードからソフトへと移行し、地域をネットワークする組織「野田北ふるさとネット」を創設。(草にみえ)活動と「ひとづくり・仲間づくり・生活づくり」の思想でコミュニティでの「くみかみ」をまちづくりを目指している。
- ⑫ 日吉町ひだまり公園…災害に備えて各所に造られた小さな防災公園の一つで、「開 1996、1.17」と刻まれた公園のシンボルが、地域の人たちのあの日を記憶を伝えている。
- ⑬ 日吉町ボウリング「あわせの地蔵」…防災公園にある地蔵堂に、震災による火災で壊れたようになった2体の石地蔵と、仏教ボランティア大塚から寄贈された木彫りの「あわせの地蔵」が祀られている。
- ⑭ 若松公園と鉄人28号…一次項の新長田駅前西側地区として、防災拠点とするために若松公園が大きく整備されている。公園内には、横山光輝氏の代表作の一つである「鉄人28号」が、体長18mという超ビッグサイズの銅鑄製モニュメントとして2009年9月に設置された。
- ⑮ 新長田駅前南側地区…震災により大きな被害を受けた市街地の復興と防災公園を中心とした防災拠点の構築。地域の活性化や副都心によさわしい都市機能の整備を図るために実施された約8割が完成、未入居の店舗が残っている。
- ⑯ 親説と復興のベンチ(神戸の壁)…若松町の公設市場の防火壁は、神戸大空襲と大震災の火災に耐え、歴史の証人として「神戸の壁」と呼ばれ震災の象徴となった。再開発事業で移転が決まり、地中の基礎部分が種子の形にデザインされ、「アスタク」の地下通路に隣接されている。
- ⑰ 大正商店街…9割の店が全壊し壊滅的な被害を受けた。モダンな商店街として再建され、大正商店街らしい人情あふれるイベントが各種開催されている。大正時代の生活空間である土間と新開を再現した「大正ハイカラ散歩亭」が開設されている。

- ⑱ 古民家を移築した集会所…香住町(長春町)に建てられていた古民家を移築して作られた集会所。6・7日自治会集会所、南側地区の住民たちの交流の場となっている。
- ⑲ 御音喜公園…震災時、火災のひびきを防止し、公園内に避難した人々を火災から守ったクスノキがある。震災時は10mあったが、倒れた木の上部分を切り取って8~8.5mとなっている。
- ⑳ 御音喜公園…地域の力で整備した公園で、この地域の120人が亡くなった場所を示す地区が刻まれている「鉄樹」のモニュメントが設置され、焼け残った電柱が保存されている。
- ㉑ 共同住宅「みくら5」…12件が集まって建てた共同住宅。1階の地元企業の協力による「地域コミュニティスペース(プラザ)」を拠点に、まち・コミュニケーションはまちづくりの活動を展開している。
- ㉒ 地域人材支援センター(旧二葉小学校)…1929年に建設され、戦災・震災を乗り越えた地域のシンボルである旧二葉小学校が、NPO 法人ふたばを指定管理者として、市民の地域活動への参加支援や地域活性化を担う人材育成の拠点として活用されている。
- ㉓ 震災ミュージアム…震災で生じた様々な「受け合い」の心をいっしょに語り、防災知識の普及啓発に努める場所として、また震災の記憶・体験・教訓を伝える拠点として整備された。
- ㉔ KOBE 鉄人三國志ガッパ…観光客に前を叩きつけてもらおうと2009年12月にオープン。鉄人28号の製作映像の上映や、三國志に登場する重臣・諸葛孔明の等身大オブジェを展示している。
- ㉕ 六間道商店街…かつては神戸有数の繁華街だったが、周辺企業が撤退し大震災もあって店舗が減少した。「六間道お百度やい」の取り組みや、横山光輝氏(鉄人28号)の作者の遺業を継承するお披露目会「六間道なごみサロン」、三國志をテーマにした新名所「親戚寄席」がある。
- ㉖ 九五市場…80年以上の歴史を持ち、伝統の仕入や加工・販売技術を持つ、こだわりの専門店が多い、アジア系食品や物品を扱う店もあり、他の市場にない楽しい「買い物」の場だと評されている。昔ながらの下町の人情と賑わいが残る市場。
- ㉗ 本町商店街…震災で多くの店舗が倒壊したが、「ビッグハート」をシンボルとして、ふれあいコンサートや長田ならぬまつり、九五教室・絵付け教室などのイベントを多数実施している。移学旅行生対象の親子紙教室も好評。
- ㉘ 神戸協同病院…震災では断片的に夜中まで診療にあたり、震災後の復興には地域住民と一緒にまちづくりに参加してきた。地域から頼られる存在になることを理念として、地域住民とコミュニケーションをとり、病院として絆を結ぶ地域にまちづくりに力を入れている。
- ㉙ 大倉地区震災復興記念碑…マンションの入口に、「明日へわがまち」と大きく書かれた記念碑がある。台座には、戦災・震災の火災に耐え抜いた「神戸の壁」の一部が使われ、被災住民が一日でも早く帰って来られることを最後光景とした復興協議会の決意が記されている。